

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472201670
法人名	株式会社 湘南みどり園
事業所名	グループホーム花樹
訪問調査日	平成19年7月23日
評価確定日	平成19年9月21日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1472201670		
法人名	株式会社 湘南みどり園		
事業所名	グループホーム 花樹		
所在地 (電話番号)	神奈川県藤沢市柄沢 372 (電話) 0466-26-6612		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年9月21日

【情報提供票より】(19年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤 13人, 非常勤6人, 常勤換算11人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	--------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	(有)150,000円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)350,000円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,300 円				

(4) 利用者の概要(7月7日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南柄沢クリニック・藤沢病院・カリス歯科クリニック・湘南なぎさ診療所
---------	------------------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは藤沢駅からバスで約10分の住宅街に立地している。周囲は畑や空き地も点在しており自然に恵まれている。
園芸療法を取り入れており、前庭の花壇にはたくさんの季節の花が植えられている。また、ベランダにも園芸療法の活動で作った寄せ植えが置かれている。建物はL字型の木造2階建てで、庭を囲むように建てられている。
ホームの入り口の横にごみ置き場を設置し、近隣の住民と共用している。掃除は近隣の住民と順番で行っている。また、地元公民館での舞踊鑑賞会に利用者が参加するなど、地元との交流に積極的に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、サービス評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3~4ヶ月に1回開催している。民生委員、介護相談員、社協、家族などが参加している。会議では、事業所の現況や自己評価の内容を報告し、改善課題を話し合っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の日常生活の様子や健康状態を毎月家族へ報告している。その際、利用者の暮らしぶりを写した写真も送っている。また、毎年家族会を開催し、皆で会食し、何でも話し合える雰囲気作りをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板を利用者と一緒に届けている。地域の防災訓練、盆踊り大会、舞踊鑑賞会に出かけている。グループホーム敷地内にごみ置き場を設置し、近隣住民と共用しており、ごみ置き場の清掃は住民と順番で行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域での安心した暮らしを継続できるように「ゆっくりのこころ」を掲げ、職員はそれぞれの利用者に合わせた柔軟な支援を行なっている。		重要事項説明書に書かれている理念は旧来の理念であるため、新しい理念に書き換えることが望まれる。
		理念の共有と日々の取り組み	職員全員に理念を配布し、一人ひとりが日々の実践の中で活かせるよう取り組んでいる。 職員は、申し送りや関わりの振り返りの時などに、お互いに理念を確認し合うようにしている。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	自治会に加入している。また、グループホームの敷地内に近隣の住民と共用のごみ置き場を設置して、掃除なども順番に行なっている。自治会や地域の方から盆踊りや舞踊の会の案内があり、利用者の希望に応じて参加している。職員が、公民館で行なわれた「車椅子の講習会」で講師をした。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	管理者は、サービス評価の意義や目的を職員に伝え、職員全員で自己評価に取り組んだ。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は3~4ヶ月に1回開催している。民生委員、介護相談員、社協、家族などが参加している。会議では、事業所の現況や自己評価の内容を報告し、改善課題を話し合っている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新手続きなどの時に、市の担当窓口積極的に顔を出している。また、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ日常生活の様子や健康状態を報告している。また、利用者の日常の写真を送り、暮らしぶりを伝えている。 心身の状況に変化があった時には、随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・友人が来訪しやすい雰囲気づくりに努め、面会時などを利用して家族と意見交換し、運営に反映している。 家族会は年1回開催している。その際は皆で会食し、意見などを言いやすいような雰囲気づくりをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員による支援を心がけている。やむを得ず職員が退職する場合は、利用者のダメージを防ぐよう配慮している。退職した職員も時々遊びに来てくれる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修をなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告をファイルし、全職員が閲覧できるようにしている。 認知症対応・ケアなどの本や資料を職員間で共有し、日々の体験を学びにつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に加入し、2ヶ月に1回の会合や勉強会に参加して、情報の共有、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時には、管理者が利用希望者の自宅を訪問したり、事業所に遊びに来てもらったり、さらに2泊3日の体験入所をしてもらい、他の利用者や場の雰囲気に徐々に馴染んでもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活の知恵や様々な知識を生かせるよう心がけている。料理や洗濯物たたみ、諺などを職員が教わる場面を多くもてるように支援している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、声かけなどにより利用者の希望を把握するよう努めている。「買い物や散歩に毎日出かけたがたい」、「入浴したい」、「午前中はゆっくりしたい」など、利用者ごとの希望を、言葉や表情などから推し測ったり、それとなく確認するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全員でのチーム会議の開催がなかなかできないが、職員は、利用者の要望を本人や家族から聴き、日々の支援の中での気づきをこまめに記録し、介護計画に反映させるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月及び6ヶ月ごとに見直しをしている。状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをする。いずれの場合も利用者、家族などの意見も充分に取り入れて介護計画の見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	本人、家族の状況に応じて、 通院や外出の送迎など必要な 支援を柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	協力医療機関と24時間医療 連絡体制がとれている。月2 回の往診があり、利用者の健 康管理、服薬指導を行っている。 以前からのかかりつけ医に通 院する利用者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	入居時に可能な限りの重度化 対応を行なうことを伝えてい る。家族・利用者・医療機関 と連絡をとりながら支援する 体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 扱いをしていない	管理者は、居室の見学の時 ロックをしてから入室してい た。書類は事務室の戸棚の中 に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望 にそって支援している	起床、身支度や食事時間は 個々のペースを大切に、対 応している。 買い物や散歩などは、一人 ひとりの状態や思いに配慮 しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みや希望を聞きながら決めるようにしている。彩りや栄養に配慮し、多くの食材を使うようにしている。職員は、調理、盛り付け、片付けや食事などを利用者と共にやっている。 訪問時、利用者は、ゆっくりと楽しみながら食事をして、完食していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により毎日入浴できる体制になっている。また同性介助の必要な方には配慮している。 入浴ができなかったり、拒む方には足浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。他の利用者の洋服のつくりをしたり、渋柿やらっきょうの皮をむくなど、利用者が経験や知恵を発揮できる場面をつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩や買い物に出かけている。月2回位は外食を楽しんでいる。利用者は回転すしを特に楽しみにしている。 ドライブで近くの江ノ島やフラワーセンターに出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やリビングは施錠していないため、自由に庭に出ることができる。2階の階段への出入口は、家族の了解の上施錠しているが、利用者の要望があれば速やかに開けている。居室は中から鍵が掛けられるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の防災訓練に参加している。 消防署の協力を得て、避難経路の確認を行い、年1回利用者とともに避難訓練を行なっている。 非常用の食料は、常に保存するように心がけている。 防災グッズは徐々に用意をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は職員が常に心がけている。記録は、特に必要な時のみしている。また、利用者の個別の残食量は介護記録に記入している。 「食品衛生管理者」の資格をもっている職員が、常に栄養面のチェックをしている。体重測定も月1回行い状況を把握している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファやテーブル、椅子などは家庭的で、安心感がある場所になっている。壁には、利用者の手作りカレンダーや行事の写真、花火の切り絵などが飾られ季節感を採り入れている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの馴染みのものが置かれ、居心地よく暮らせるよう配慮されていた。 フローリングの居室に畳を敷いている人もいる。また、自分の居室に他の方を招いて話をする人もいる。		